

# 受注8カ月ぶりに100%割れ

## 1月のプレカット調査

1月のプレカット稼働率調査 <全国平均表>

単位：％、( )内は前年比

	19年12月(稼働)	20年1月(受注)	2月(見積もり)
北海道	108.0(109.0)	76.5( 92.0)	72.5( 86.5)
東北	80.0(135.0)	70.0(100.0)	70.0(100.0)
関東	101.7(125.3)	83.3(118.3)	77.5(107.0)
中部	95.7( 91.7)	92.7(130.3)	99.0(105.3)
関西	97.7( 90.0)	91.3(103.3)	91.7( 96.3)
中国	125.0(115.0)	85.0( 95.0)	70.0( 85.0)
四国	105.0(129.0)	93.0(120.0)	— ( — )
九州	115.0(105.0)	111.0(104.5)	116.0(100.0)
全国平均	103.5(112.5)	87.9(107.9)	85.2( 97.2)

※全国平均に回答なしのエリアは含まず

1月の全国プレカット各社の平均受注(各エリア平均の全国平均)は、87・9%(前年同期比7・9%増)となり、2019年5月以来8カ月ぶりに100%を割った。昨年12月下旬にかけて見積もり案件が減少し、今年に入って先行きの見通しも不透明となった。ただこの動きは例年のことで、前年と比べてもそれほど落ち込んではいない。春ごろまでは構造材の相場が引き続き軟調に推移しそうな情勢も、不需要期の雰囲気がある程度緩和させている。

## 例年の不需要期並みで推移

本紙が全国のプレカット27社を対象に実施している稼働状況調査(別表によると、19年12月の稼働率は10・3・5%(同12・5%増)と、3カ月連続で100%を超えた。8月からの豪雨や台風で8月の9月は稼働率が100%を割ったが、その影響で溜まった受注残も重なって10・12月まで高位に推移した。工場によっては台風19号の影響もあり、例年最盛期の10・11月に稼働が落ち込むケースもあつたが、それも12月にかけて挽回してきた。ただ、年末にかけて

地場工務店からの仕事を中心に落ち着きはじめ、それが1月からの稼働に影響を与えている。1月分の稼働はまだ12月までの受注残がそれなりにあり、年越し物件も残っていた。ただ大手でも12月下旬にかけて先行きの見積もり案件が減少傾向にあり、2・3月の仕事量が見えにくくなっている。工場によっては

4月ごろまで不透明だという見方もある。ただこの不需要期は例年の流れとして織り込み済みで、前年に比べてもほとんど横ばいか微減といった声が多い。

むしろ19年はいまだ続く職人不足やトラックドライバー不足、相次ぐ自然災害などに対応した加工の段取り調整に追われてきた。そうした混乱がようやく一段落した感じもある。ただ、顧客のビルダーによっては、引き続き大工不足で加工や加工済み資材搬入の順延が常態化している。また地場工務店からの受注が減少傾向にある一方で、ハウスメー

カーや分譲系ビルダーからの仕事は堅調だ。全体の稼働をある程度安定させるため、ビルダー系の加工割合が増加傾向にある。

一方、構造材の相場が収益に直結する。そのためこの1年は構造材の統落により、ある程度恩恵を受けられた。19年末からRウッド横架材の産地相場が反転し始めたが、春ごろまで現物が残るため国内相場は輸入品の柱・梁、間柱を中心に弱気がぬぐえない情勢にある。




**集成材**

お問い合わせ下さい

**TSC 株式会社 ティ・エス・シー**

〒292-0838 千葉県木更津市潮浜2-1-53  
TEL/0438-37-0206 FAX/0438-37-2349  
ホームページ <http://www.syusei-tsc.com>

ただ、この不需要期もプレカットが例年並みの稼働を維持できれば比較的穏やかに乗り切れそう。今年には新設住宅着工を含めて不透明感が強く、下がりすぎた資材相場の動向がなおさら重要になってくる。